

観光社会資本の事例

テーマ	弥生時代が蘇る吉野ヶ里の復元建物	
【施設の状況写真】		
		
<p>夜明けや朝焼けにより弥生の幻想的な風景となる環壕集落。地元の写真家の間で絶好のポイントの1つとされています。</p>	<p>吉野ヶ里遺跡の遺構をもとに主祭殿をはじめ、物見櫓・竪穴建物・高床倉庫など復元しており、弥生時代の建築を見学できます。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>環壕集落ゾーンは、一般だけでなく、多くの学校団体にも見学利用されている。ゾーン内では参加型のイベントや貫頭衣の貸出しにより弥生の雰囲気を感じることができます。</p>	<p>体験プログラムの勾玉づくりや土笛づくりなどを環壕集落の「倉と市」で行えます。短時間で簡単に体験できるため、子供や家族連れの利用が多い。</p>	<p>県立公園では物見櫓風の展望台やローラー滑り台、ふわふわドームなど10種類の大型遊具があり、家族連れの利用が多い。</p>
【観光資源としての利用状況】		
<p>国営吉野ヶ里歴史公園は、吉野ヶ里遺跡の保存と、適切な施設の復元やわかりやすい手触りの展示等の遺跡の活用を通じて、歴史文化の創造・情報発信に資するとともに、県立公園と一体となって、地域の文化、歴史、風土を活かしたレクリエーション環境を形成する九州地方の歴史文化公園の拠点です。</p>		
<p>公園には、現在、「北内郭」、「南内郭」、「倉と市」に物見櫓、竪穴住居や高床倉庫など71棟が遺構にもとづき復元されており、全国各地からの来園があります。また、学習の場として修学旅行や総合学習で利用されています。また、隣接する県立公園と一体となり、年間を通じて花を楽しめるとともに、大型遊具や芝生広場、多種多様なイベントにより、歴史ファンだけでなく多くの方々にご利用いただいているほか、地元町村のイベント会場となる等地域との連携も深めています。</p>		
<p>また、吉野ヶ里遺跡の知名度は、弥生時代を代表する遺跡として全国でもトップクラスにあることから、平成13年の開園以来の累計入園者数は220万人を超え、九州有数の観光資源となっています。</p>		

テーマ	弥生時代が蘇る吉野ヶ里の復元建物
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 国営吉野ヶ里歴史公園</p> <p>所在地 佐賀県神埼市、神埼郡吉野ヶ里町</p> <p>事業名 国営公園整備事業</p> <p>事業主体 国土交通省</p> <p>事業期間 平成4年～</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>地域観光振興</p> <p>国営吉野ヶ里歴史公園には年間40万人を超える来園者があり、このうち約86%が佐賀県外から来園しているとともに、九州以外からの来園も61%程度を占めており全国から広く利用されています。</p> <p>また、春のゴールデンウィークイベント期間に約6万9千人の来園者があり、地元の商工観光と連携したイベントを行うなどして複合的な経済効果をもたらしています。</p> <p>歴史文化の創造</p> <p>我が国固有の優れた文化的資産である吉野ヶ里遺跡を保存するとともに、雄大な環壕集落など「国」の始まりと魏志倭人伝の世界を想起させる遺跡の全体的な特色を生かし、広く弥生時代の景観を感じさせる歴史のロマンあふれる魅力ある整備を進めています。</p> <p>レクリエーション</p> <p>県立公園では各種スポーツ、ふわふわドームなど10種類の遊具、野外炊事コーナーなど多くの人に利用されています。また、グランドゴルフにおいては九州大会が当公園で開催されます。</p>	
<p>【位置図】</p>	
<p>【関連ホームページ】 吉野ヶ里歴史公園ホームページ http://www.yoshinogari.jp</p> <p>吉野ヶ里歴史公園携帯サイト http://www.yoshinogari.jp/m/</p>	